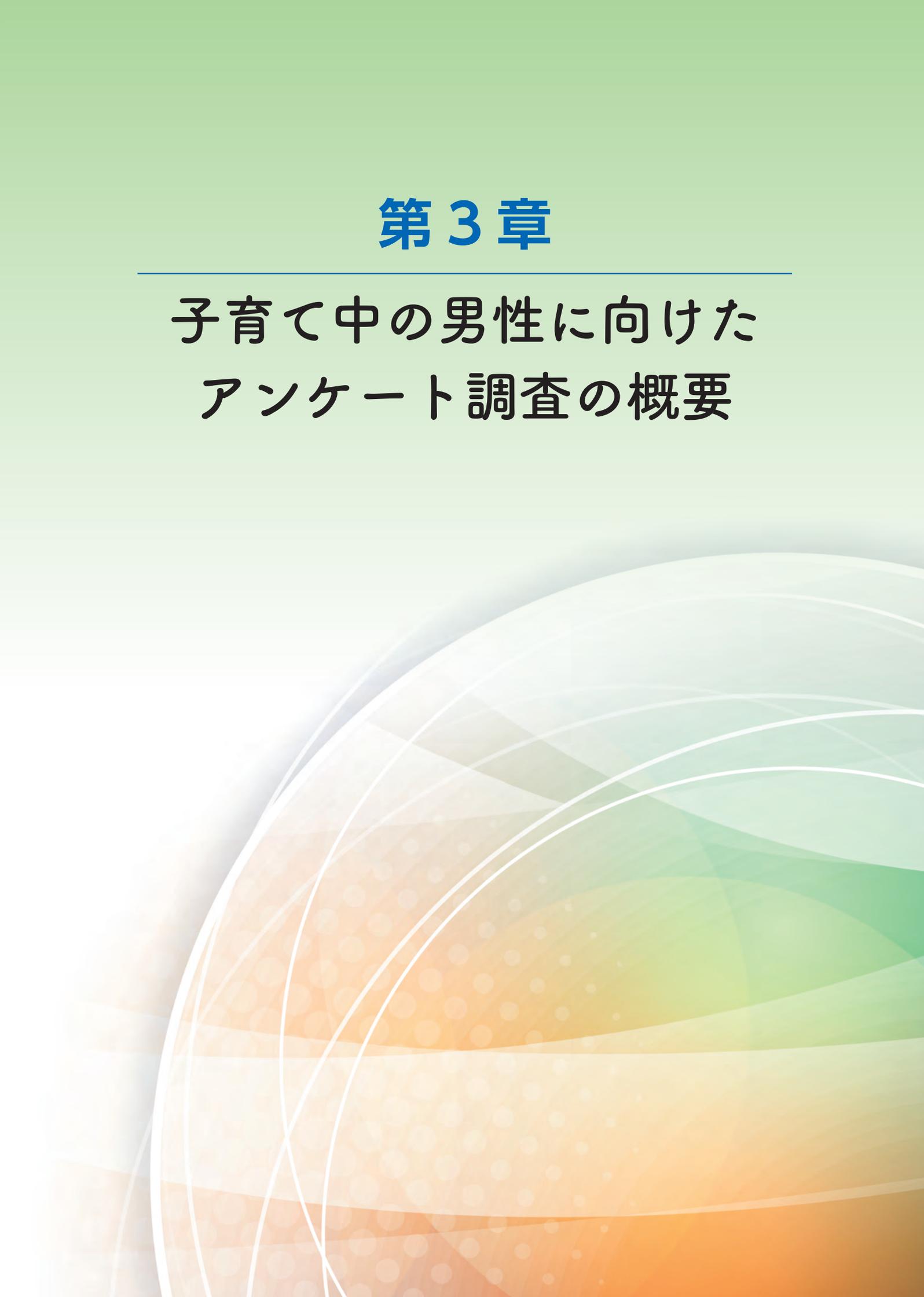


第3章

子育て中の男性に向けた アンケート調査の概要



第3章 子育て中の男性に向けたアンケート調査の概要

1 調査の目的

近年、共働き世帯の数は増加傾向にあり、「男性は仕事、女性は家庭を守る」というような古典的な性役割規範の拘束力は弱まってきている。女性の生き方の多様化に伴い、男性が家事・育児に参加することの必要性が訴えられているが、職場や家庭など様々な事情により、家事・育児に思うように参加できない男性も多い。そこで本研究では、育児期男性の育児状況、自尊感情、レジリエンス等について実態を把握することを目的として、育児期男性に対してアンケート調査を行った。

2 調査の内容と方法

(1) 調査の設計

①調査対象者

板橋区・北区在住の、第1子が0歳から5歳である男性

②対象者数

5,000人（人口按分によって、板橋区3,065人、北区1,935人）

③抽出方法

板橋区、北区の住民基本台帳から単純無作為抽出

(2) アンケート調査の方法

自記式調査票を郵送にて配布し、郵送にて回収（催促状：1回送付）

(3) 調査期間

2020（令和2年）年4月1日～6月19日

(4) 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
全体	5,000	1,476	29.5%
板橋区	3,065	955	31.2%
北区	1,935	521	26.9%

(5) 調査項目

- ①基本属性
- ②就業状況について
- ③同居の子どもについて
- ④配偶者・パートナーについて
- ⑤配偶者・パートナーが退職前に最後に就いていた仕事について
- ⑥あなた自身の年収、世帯年収について
- ⑦子育てで得られるサポートについて
- ⑧ワーク・ライフ・バランスについて
- ⑨心理的指標について（自尊感情、人生満足度、レジリエンス、親性尺度）
- ⑩性役割についての態度
- ⑪自分自身についての自由記述
- ⑫行政への期待

(6) 倫理的配慮

本研究の調査対象者に対する倫理的配慮として、以下の点につき、対象者にアンケート票とともに郵送して詳細を知らせた。そして、アンケートに回答、返送してもらった時点で、本研究の趣旨や目的、データ利用、個人情報の保護、倫理的配慮等について理解を得たものと見なすことを明示した。

- ①本調査で知り得た内容を、調査目的以外に用いない
- ②個人情報を保護するため、研究目的に関する事項以外のことは聞かない。対象者の匿名性を担保する。
- ③回答したくないものには回答しなくともよい、回答しない場合にも不利益は被らない、回答は任意であることを、アンケート票の表紙と同封する資料に記載し、理解を得るよう最大限努めた。

また本調査（グループインタビュー調査含む）は、東京家政大学研究倫理委員会に「育児期女性の自尊感情とレジリエンスについての調査研究」として審査申請を行い、承認を受けたものである。